環境部

環境衛生課
環境事業所
　環境総務課
　環境事業課
リサイクルセンター
乙辺浄化センター

組織の目的と役割　環境部　環境衛生課

組織の目的（どのような価値を提供するのか）

低炭素で持続可能な社会の実現に向けた、施策を展開するとともに、地域の環境（水環境、大気環境など）を保全するため、環境調査や事業所規制を行う。
交野市の地域資源である山地、里山を保全し現代的な活用を進め、次世代に継承する。
狂犬病予防、衛生害虫及び有害鳥獣対策などの生活環境の保全施策を進める。
専用水道・簡易専用水道等及び浄化槽の適正な維持管理を推進し、公衆衛生の向上と生活環境の保全に努める。

価値を提供する上で、解決すべき課題

目的を達成するためには、多くの市民・地域の参画が必要である。
本当の意味での協働(それぞれの主体のなすべきことを明確化)を確立する。
環境調査や事業所規制などは、専門性の高い人材育成、技術の継承が重要であり、職場にふさわしい人事異動等の検討が必要。
交野らしい自然環境を維持管理していくためには、職員が減少するなかで、効率的な業務遂行が必要である。
衛生害虫及び有害鳥獣対策については、職員が減少するなかで、効果的な業務遂行が必要である。
簡易専用水道等の水道設備設置者及び浄化槽設置者による自主的な維持管理並びに法令遵守が必要である。

組織が担う施策とその役割

施策の柱	施策名	役　割	役割の内容
低炭素社会に向けた施策展開	低炭素で持続可能な社会づくり	主体的に	環境施策のビジョンや方向性を示すこと。
		協働して	環境基本計画の推進
		支援的に	事業者や団体等の環境保全活動が、効果的に実施されるように支援する。
生活環境の保全	生活環境の保全	主体的に	環境調査、事業所規制などは、市が主体的にすべき業務である。
		協働して	事業者の自主的な法令順守、地域への配慮が必要
		支援的に	事業者が EMS の構築時などに、環境法令説明や、地域の環境の状況等を提供する
快適な生活環境をつくる	自然環境の保全	主体的に	住民の意向を把握しつつ、里山の保全を図る。
		協働して	地権者・企業・ボランティア等の協力をえて、適切な里山の保全・管理を図る。
		支援的に	里山の保全・管理・活用のため、林業改良指導員・准フォレスター（学識経験者）、地権者、隣接地域との検討・実践活動を支援する。 技術的支援制度の充実を図る。
生活環境の保全	生活衛生の確保	主体的に	狂犬病予防集合注射の実施など、接種推進施策を進める。公共水路における衛生害虫の発生抑制。 簡易専用水道等の水道設備設置者及び浄化槽設置者に、適正な維持管理を促す。
		協働して	ペットマナー向上の取り組みなどを、専門家と進める。 専門機関と連携しながら推進する。
		支援的に	衛生害虫の駆除方法などを周知し、各家庭での対応を促す。 有害鳥獣の被害に対する防除支援。

組織の資源と活用　環境部　環境衛生課

組織として持っている主な資源

人・ﾈｯﾄﾜｰｸ	技術・知識	情　報	も　の	計　画
ﾌｪｽﾀ市民会議、こどもｴｺｸﾗﾌﾞ、LAS-E 監査員、環境講座等講師陣、里山ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体、創造の森協議会、環境基本計画推進会議、獣医、交野市有害鳥獣被害防止対策会議	環境調査に関する事項、地球温暖化の現状認識、環境にやさしい暮らしのﾉｳﾊｳ。衛生害虫及び有害鳥獣の駆除・捕獲等に関するﾉｳﾊｳ。浄水処理及びし尿・生活排水処理設備に関する知識。環境衛生指導員	交野の環境調査結果、市役所における温室効果ｶﾞｽ発生量、環境教育・啓発事業の情報、市内環境ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体の情報、温暖化、環境活動に関する情報	環境監視測定局（第二京阪道路沿道２ヶ所、別館）、各種測定機器、騒音・振動測定機器、いきものふれあいｾﾝﾀｰ	環境基本計画 森林整備計画 交野市鳥獣被害防止計画

市民・地域団体・市民団体・事業者・事業者団体等によるまちづくりの取組みに関する情報

里山保全については、大阪府のｱﾄﾞﾌﾟﾄﾌｫﾚｽﾄ制度を活用し、市民団体・事業者の協力を得て、里山の保全活動に努めている。
環境ﾌｪｽﾀ開催・低炭素社会ﾁｬﾚﾝｼﾞ（環境ﾌｪｽﾀ市民会議）、温暖化防止啓発
環境基本計画については、市民・事業者との協働組織で、プロジェクトを推進していく。
交野市有害鳥獣被害防止対策協議会の活動として、有害鳥獣による農業被害の防止、安定した農業経営を目指し活動を行っている。

資源を踏まえ行動指針から課題と考えること、その解決策

行動指針	課題	解決策
多様性ある	市民参画の場では、同じ顔が良く見られ、新たな参画が少ない	開かれた場であることをPRする。
顔が見える	多くの会合に職員が出席している。市民の方との会合の場合開催時間の設定が難しい。また、市役所に会合を持つ部屋が少なすぎる。	市民協働を進めるためには、通常の勤務時間内の対応だけでは難しいためﾌﾚｷｼﾌﾞﾙな勤務体制も検討する。
協働する	本当の意味での協働を進めるには、市民団体等の自立が必要。（そのためには事務所機能が必須。）	活用できる場所、事務所経費なども含め総合的に検討する。
挑戦する	環境施策は、市の財政状況と比例する部分があり、本市では多くの支出を伴う事業が実施しにくい	啓発的な事業を中心にすえるものの、費用対効果が大きい事業を見極め優先的に実施する。
創造する	毎年の事業などは、形が出来てしまうと、変化が生まれにくく単なる継続になる危険がある、新たな創造が生まれにくい。	市民団体・職員ともに人材の流動化を進めﾏﾝﾈﾘを打破する。
持続する	組織でなく個人に付く事業が多い。職員間の引継ぎが難しい。	事務的な部分はﾏﾆｭｱﾙ化を進め、対人的な部分は市民対話の機会を広げる

課の資源を有効に活用するために取り組むこと

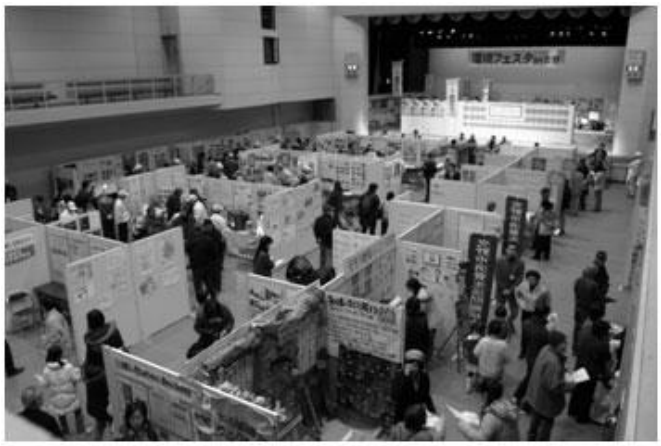
情報の視点（収集、提供）	環境情報は原則公開とし、「交野の環境」を発行、HP掲載をする。
学びの視点（育成、機会）	全ての職員が様々な業務に携わる。
広域的視点（他との連携）	市民の方の感覚は、市の組織割とは関係ない。他部局との連携が必要。
場づくり	市民の方との接点を多く持つ場を作ることで、資源の新たな活用方法なども発見できる。

施策名	低炭素で持続可能な社会づくり

部課等名	環境部　環境衛生課
“かたのサイズ”をめざす像（主要3つ）	地球の温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている ボランティアや地域活動などに参加して、やりがいがある いろんな人が知恵を出し合って、新しいことが生まれている　その他多数
現状と課題（上記を踏まえ）	環境意識の高い人とそうでない人の差があり、市民全体に伝え、具体的な行動に繋げていくことが課題
施策の目的（提供する価値）	市民、事業者、行政が一体となり、地球規模の環境問題に目を向けながら地域で出来る行動を実践している。 持続可能な地域社会を目指し、「環境にやさしいまち☆交野」と市内外に認識されている。
施策の目標（3年後の状態）	市民協働による環境保全活動が定着し、活動には若い世代を含め幅広い層が参画している。 環境基本計画に基づき、具体的な行動が進められている。
財源見込み	国の負担（　　0 千円）　大阪府の負担（　　0 千円）

	事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	アウトプット指標	H25実績	H27目標	H27予算額 H26予算額
1	交野市環境マネジメントシステム（LAS-E）の推進	低炭素社会の実現を目指した事業を展開する	直委	選択法定	A	温室効果ガス排出量（LAS-E対象）	2,527t（CO2）	—	1,574 千円 1,574 千円
2	環境保全の啓発	環境啓発事業の実施により環境保全意識を高める	直委	選択	B	受講者数	255 名	250 名	666 千円 666 千円
3	交野市環境基本計画の推進	市民・事業者との協働組織により、プロジェクトを推進していく	直委	選択	B	講座の回数	22 回	32 回	2,896 千円 2,896 千円

環境フェスタの様子



主な動き
○環境基本計画・運用、環境自治体会議参画、交野市環境マネジメントシステム(LAS-E)運用
○環境フェスタ in 交野、環境講座・環境教室などの開催、こどもエコクラブ支援

施策名	生活環境の保全

部課等名	環境部　環境衛生課
“かたのサイズ”をめざす像（主要3つ）	公害のない心地よく住める環境を守っている ﾏﾅｰを守り、周りに迷惑になることをしないよう心がけている 川や池など水辺環境がきれいで潤いがある
現状と課題（上記を踏まえ）	公害苦情が年間約40件寄せられている 監視しなければならない、項目・場所が増加していく
施策の目的（提供する価値）	公害の発生抑制、未然防止を図り良好な生活環境を保全する
施策の目標（3年後の状態）	事業者は周辺環境に配慮して事業活動を営んでおり、良好な生活環境が維持されている
財源見込み	国の負担　（　　0 千円）　　大阪府の負担（　　468　千円）

	事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ指標	H25実績	H27目標	H27予算額 H26予算額
1	環境調査・監視体制の充実	大気･水質･騒音等の環境の現況把握に努める	直委	法定選択	B	交野の環境の的確な把握及び結果の公表	各種調査を実施した	的確な調査を実施する	22,777 千円 23,033 千円
2	総合的な発生源対策	法令に基づく事業所指導などの発生源対策を展開する	直	法定	B	苦情事案等の解決	苦情処理数45件	受け付した全苦情の解決	677 千円 677 千円

第二京阪道路環境監視施設

環境調査の概要

○騒音・振動調査(環境騒音調査、道路交通振動調査)、大気調査(大気汚染常時監視調査、大気環境調査、窒素酸化物濃度簡易調査)、水質調査(主要河川水質調査、地下水質調査)、ﾀﾞｲｵｷｼﾝ類調査

総合的な発生源対策

○環境保全委員会、事業所規制・指導、公害苦情処理

施策名	自然環境の保全

部課等名	環境部　環境衛生課
“かたのサイズ”をめざす像（主要3つ）	里山の植生が豊かで大切な憩いの場となっている 山も里も四季折々の景観が楽しめ風情を感じる 自然の中では多様な生き物と触れ合うことができる
現状と課題（上記を踏まえ）	竹林の侵食やナラ枯れが進行している。山地部及び里山林の保全と活用。
施策の目的（提供する価値）	交野らしい自然環境が、適切に保全され、市民のみならず、自然と親しみたい人の憩いと共生の空間となっている。 交野らしい里山の保全・創造に取り組んでいる市民が、活動の目標を設定し、相互に連携を図りながら、次世代に里山環境を継承していく。
施策の目標（3年後の状態）	竹の侵食により山林の荒廃が進んでいるため、伐竹・植栽による植生転換をめざす。 里山がもつ多様な機能、生物の多様性を回復させるため、積極的な活用方策を見出す。
財源見込み	国の負担　（　0 千円）　大阪府の負担（　3,291　千円）

	事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	アウトプット指標	H25実績	H27目標	H27 予算額 H26 予算額
1	自然・緑地環境等の維持管理	指定した樹木等の保全支援	直 補	選択	B	指定樹木	4 件	4 件	372 千円 316 千円
2	さとやま保全事業	いきものふれあいの里の維持管理と活用 自然公園施設等に関する受託業務	直	選択	B	里山保全員の養成	—	10名	12,476 千円 12,411 千円
3	創造の森等の適切な維持管理	自然環境作り 除草、危険木伐採	直	選択	B	協議会及び隣接地域との打合せの開催 ビートルレンジャー、ビオトープ、くぬぎの森づくり	2 件	2 件	450 千円 450 千円

市立いきものふれあいセンター

里山保全活動

施策名	生活衛生の確保

部課等名	環境部　環境衛生課
“かたのサイズ”をめざす像（主要3つ）	道路や公園など生活環境がきれいに保たれている マナーを守り、周りに迷惑になることをしないよう心がけている
現状と課題（上記を踏まえ）	犬の糞の放置などが市内あちらこちらで見られる。 ゆすりかなど、衛生害虫による被害が発生している。 有害鳥獣による農業被害等が発生している。 浄化槽の法定検査受検数が少ない。
施策の目的（提供する価値）	健康で快適な生活衛生状況の確保
施策の目標（3年後の状態）	ﾍﾟｯﾄ飼養者がﾏﾅｰを守り、周辺に迷惑をかけない。 衛生害虫や有害鳥獣による被害発生数が減少している。 浄化槽の法定検査受検数が増加している。
財源見込み	国の負担（　0 千円）　大阪府の負担（　600 千円）

	事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ指標	H25実績	H27目標	H27 予算額 H26 予算額
1	狂犬病予防、ﾍﾟｯﾄﾏﾅｰの向上	狂犬病発生時に備え予防接種率の向上を図る	直委	法定選択	B	狂犬病予防注射接種数	2,957 件	予防接種率の向上	衛生害虫対策予算に含む
2	衛生害虫対策	蚊･ゆすりかなど衛生害虫の対策	直委	選択	A	衛生害虫相談件数	144 件	全ての相談への適正な対応	3,279 千円 3,076 千円
3	有害鳥獣被害対策	有害鳥獣による被害対策	直委補	選択	A	捕獲数	49 頭	同程度の個体数の捕獲	574 千円 570 千円
4	水道法･浄化槽法に基づく事務	各種届出書の受理、法令遵守の啓発及び指導	直委	法定	B	法定検査受検数	170 件	法定検査受検数の向上	262 千円 273 千円

犬の飼い方教室

組織の目的と役割　環境部　環境総務課

組織の目的（どのような価値を提供するのか）

部所管業務に関する予期せぬ変化や突発的な事案へ対応するための情報収集や庁内調整を行う。
また、市内から排出されるごみの減量とﾘｻｲｸﾙを推進する。市民・事業者・行政・地域組織が協力して4Rを実践し、資源循環型社会の形成を目指す。
適正なごみ処理を維持するために、老朽化したごみ処理施設（四條畷市交野市清掃施設組合）に代わる新ごみ処理施設の整備事業を推進する。

価値を提供する上で、解決すべき課題

部内各課の調整、支援のため、各課の業務内容の把握整理が必要である。
部としての機能を高めるため、情報の共有と連携がスムーズに行われる仕組み作りが必要である。
循環型社会の形成にあたっては、人づくりが基本となる。ごみ問題、資源のﾘｻｲｸﾙに対する全体の意識を高めるための人づくりの取組が必要である。

組織が担う施策とその役割

施策の柱	施策名	役　割	役割の内容
ごみの減量化とﾘｻｲｸﾙの推進	適正なごみ処理の取組	主体的に	新ごみ処理施設の整備事業を推進し、適正なごみ処理が継続できるよう努める。
		協働して	関係機関と調整、連携しながら推進する。
		支援的に	市の組織に対しても、協力、支援を要請する。
	循環型社会の形成を推進する市民活動支援	主体的に	市民活動団体に補助金の交付、活動支援、提案を行う。
		協働して	市民と共に、ごみを減らし、資源として有効活用する活動を展開する。
		支援的に	地域における自主的な活動団体が活動しやすいよう、環境整備を行う。
	ごみの発生抑制及びﾘｻｲｸﾙ推進の啓発	主体的に	4R を実践するうえで、市民、事業者、行政及び地域組織がそれぞれの立場で果たすべき役割を具体的に示す。 情報提供の充実を図る。
		協働して	市民と共に、ごみを減らし、資源として有効活用する活動を展開する。
		支援的に	適切な分別がなされるよう、わかりやすい啓発を行う。

組織の資源と活用　環境部　環境総務課

組織として持っている主な資源

人・ﾈｯﾄﾜｰｸ	技術・知識	情　報	も　の	計　画
交野市4R市民会議、交野市牛乳ﾊﾟｯｸﾘｻｲｸﾙ連絡会、北河内４市ﾘｻｲｸﾙ施設組合、四條畷市交野市清掃施設組合、河北ﾌﾞﾛｯｸ廃棄物・ﾘｻｲｸﾙ主担者会議、東大阪ﾌﾞﾛｯｸ・京阪奈北ﾚｼﾞ袋削減推進会議	ごみ減量・ﾘｻｲｸﾙに関する知識	ごみ減量・ﾘｻｲｸﾙに関する情報、ごみ処理状況等統計資料	ｴｺ・ｸﾘｰﾝｾﾝﾀｰ、北河内4市ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗｻﾞ（かざぐるま）、ﾘｻｲｸﾙｾﾝﾀｰ、寺作業所	交野市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画、交野市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画、北河内４市及び京田辺市地域循環型社会形成推進地域計画、

市民・地域団体・市民団体・事業者・事業者団体等によるまちづくりの取組みに関する情報

交野市4R市民会議の活動として、市内量販店で実施するﾏｲﾊﾞｯｸﾞｷｬﾝﾍﾟｰﾝ、ごみ処理施設等の見学会、「環境ﾌｪｽﾀ in 交野」への参加など、ごみの減量やﾘｻｲｸﾙの推進に関する啓発活動を行っている。
交野市牛乳ﾊﾟｯｸﾘｻｲｸﾙ連絡会の活動として、牛乳ﾊﾟｯｸの収集及びﾘｻｲｸﾙの啓発に取り組んでいる。

資源を踏まえ行動指針から課題と考えること、その解決策

行動指針	課題	解決策
多様性ある	課題・目的を共有する場はあるが、活用できていない。	より多くの人と課題、目的を共有する場を作る。
顔が見える	個人の取組だけで終わってしまう。	身近な地域や市民団体による活動へ参加する機会を作る。
協働する	目的を共有する場はあるが、活動が広がらない。	ごみ問題に関心を持つ人が増えるような情報提供を積極的に行う。
挑戦する	事業内容、取組に変化がない。	市民ﾆｰｽﾞに応じた活動に取り組む。
創造する	財政的な取組を実施しにくい環境にある。	あるもの（資源）を工夫して活用するような意識付けを行う。
持続する	事業内容、取り組みに変化がない。	実効性のある目標意識を持って取り組む。

課の資源を有効に活用するために取り組むこと

情報の視点（収集、提供）	広報、市のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、各種ｲﾍﾞﾝﾄなどにおいて、循環型社会に係る情報をはじめとした情報提供を行う。
学びの視点（育成、機会）	子どもへの環境教育の取組として、ごみ処理施設の見学会等により、ごみ処理の実態に触れ、ごみ問題に関心をもってもらう。こうした取組から、子どもたちが家庭内でごみのﾘｰﾀﾞｰになり、分別能力、分別ﾏﾅｰが家族へ広がっていくことも期待できる。さらに、大人への生涯学習の一環として、4Rをﾃｰﾏとした学習を推進する。
広域的視点（他との連携）	北河内4市及び京田辺市における地域循環型社会形成推進地域計画において、ごみ処理施設等の整備に関する計画を定める。 近隣市や先進市及び大阪府のごみ減量やﾘｻｲｸﾙに関する情報を収集し、連携した取組を実施する。また、事業者とも積極的に協力し、ごみの発生抑制を更に進めるための啓発活動を実施する。「ｴｺｼｮｯﾌﾟ制度」の普及、拡大にも努める。
場づくり	市民からの情報を得る場、またはｲﾍﾞﾝﾄの開催。

施策名	循環型社会の形成を推進する市民活動支援

部課等名	環境部　環境総務課
“かたのサイズ”をめざす像（主要3つ）	もったいないという思いで限りある資源を大切にしている 地球温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている
現状と課題（上記を踏まえ）	地域における活動団体等がﾘｰﾀﾞｰとなってﾘｻｲｸﾙ活動が展開できるよう、更なる環境整備を行うこと。
施策の目的（提供する価値）	市民と事業者、行政が協働で、ごみの減量やﾘｻｲｸﾙの推進に取り組む。
施策の目標（3年後の状態）	地域ﾘｰﾀﾞｰの育成や市民活動の支援を行い、市民、地域と行政とのﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟにより、ごみ削減率、再生利用率の向上を目指す。
財源見込み	国の負担　（　　0 千円）　　大阪府の負担（　　0 千円）

	事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ指　標	H25実績	H27目標	H27 予算額 H26 予算額
1	ごみ減量化・ﾘｻｲｸﾙ推進に係る市民活動の支援	ごみ減量・ﾘｻｲｸﾙ推進に対する市民意識の向上、良好な生活環境づくりを協議し、実践する。	直 補	選択	B	家庭系ごみ排出量（1人1日平均排出量） 再生利用率	541.7g 24.1%	H29 において、家庭系ごみ排出量15%減、再生利用率25%	1,500 千円 1,500 千円
2	牛乳ﾊﾟｯｸのﾘｻｲｸﾙ活動の支援	日常生活から排出される牛乳ﾊﾟｯｸの再資源化の促進、森林資源の大切さ及びごみ減量化の啓発。市内の量販店、公共施設等で回収する。	直	選択	B	牛乳ﾊﾟｯｸ、ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙの回収量	16,470kg 1,630kg	回収量の増加	0 千円 0 千円

ごみ処理施設見学会

施策名	適正なごみ処理の取組

部課等名	環境部　環境総務課
かたのサイズ”をめざす像（主要3つ）	地球の温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている マナーを守り、周囲に迷惑になることをしないように心がけている
現状と課題（上記を踏まえ）	リサイクルする過程において支障となる異物混入など、分別排出ルールを守っていただくよう啓発する。 現在のごみ処理施設（四條畷市交野市清掃施設組合）は老朽化が進んでいることから、新ごみ処理施設完成までの間、設備の延命を図る。
施策の目的（提供する価値）	衛生的で快適な環境づくりが行えるよう、ごみの適正処理を行う。 広域的なごみ処理をすることで効率的な運営が行える。
施策の目標（3年後の状態）	新ごみ処理施設が完成し、安全で安心な処理が行われている。 関係機関との協力体制を強化し、健全な運営を図る。 ごみ処理施設（四條畷市交野市清掃施設組合）の老朽化により、適正なごみ処理を行うために、新ごみ処理施設の整備事業の推進を行う。
財源見込み	国の負担　（　　0 千円）　　大阪府の負担（　　0 千円）

	事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	アウトプット指標	H25実績	H27目標	H27 予算額 H26 予算額
1	新ごみ処理施設整備事業関連事業	老朽化した現在のごみ処理施設に代わる新ごみ処理施設整備着手に向けた関連業務を行う。	直 委	選択	B	－	－	－	70,680 千円 29,401 千円
2	ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ及びﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製容器包装の適正処理	市内から発生するﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ及びﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製容器包装の分別収集、中間処理を行う。	他	選択	A	搬入量（交野市分のみ）	1,087t	1,033t	58,674 千円 58,280 千円
3	一般廃棄物（可燃ごみ）の適正処理	一般廃棄物のうち、可燃性のものを適正に処理する。	他	法定	A	処理量（交野市分のみ）	16,938t	16,091t	506,206 千円 468,365 千円

四條畷市交野市清掃施設組合

北河内4市ﾘｻｲｸﾙ施設組合「かざくるま」

施策名	ごみの発生抑制及びリサイクル推進の啓発
部課等名	環境部　環境総務課
“かたのサイズ”をめざす像（主要3つ）	もったいないという思いで限りある資源を大切にしている 暮らしに役立つ情報が、わかりやすく、すぐに手に入る
現状と課題（上記を踏まえ）	収集過程やﾘｻｲｸﾙ過程において支障となる異物が混入していること。 わかりやすい啓発活動・情報提供を心がけること。
施策の目的（提供する価値）	ごみ減量やﾘｻｲｸﾙ対策を総合的かつ計画的に推進するための基盤の確立、循環型社会の形成に向けた実効ある取り組み。 簡易包装の推進、ﾚｼﾞ袋の削減、生ごみ減量化の推進など、更なるごみの減量化を目指し、ごみの発生抑制を中心に4Rを推進する。
施策の目標（3年後の状態）	今後は事業者とも積極的に協力し、ごみの発生抑制を更に進める。 ごみの減量やﾘｻｲｸﾙの推進に関する情報を繰り返し発信することによって、市民一人ひとりがごみに関心を持ち、ごみの減量化、ﾘｻｲｸﾙ活動が広がる。
財源見込み	国の負担　（　　0 千円）　　大阪府の負担（　　0 千円）

	事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ指標	H25 実績	H27目標	H27 予算額 H26 予算額
1	ごみの減量化・リサイクル推進の啓発	ごみ減量、適正な分別排出、リサイクル等が積極的に行われるよう周知・啓発する。	直	選択	B	広報紙等による啓発記事の掲載回数	6 回	掲載回数を増やす	0 千円 0 千円
2	リサイクル情報交差点	ごみとなる前に、新たな所有者を見つけることで、ごみの排出抑制に寄与する。	直	選択	B	HP掲載数	6 件	掲載数を増やす	0 千円 0 千円

マイバックキャンペーンの様子

組織の目的と役割

環境部　環境事業課

組織の目的（どのような価値を提供するのか）

交野市内で排出される生活ごみ、事業ごみから、資源ごみをきちんと分別し、その他のごみは効果的に処理することにより、資源の有効活用を進め、地球環境の保全に資する。

価値を提供する上で、解決すべき課題

ごみの分別排出の徹底やマナーの向上を図っていくこと。
直営での収集体制の確保と今後、退職者が増えていくことから委託等による業務内容の見直しや改善が生じる。
また老朽化による機械・器具類の維持管理費や車両、施設・設備等についても今後検討・協議が必要である。
地域清掃・不法投棄ごみの収集・処分については一元化を図り他課と共同で事業を行うことが望ましい。

組織が担う施策とその役割

施策の柱	施策名	役　割	役割の内容
施設の適正な維持管理・効率的な運営	環境衛生の維持・向上	主体的に	広域で効率的・効果的に資源回収、ごみ処理ができるよう関係機関との協議・調整を進める。 排出・収集されたごみを適切に処理する。 容器包装廃棄物等の選別を行い、有価物として売却する。
		協働して	市民とともに、ごみを減らし、資源として有効活用する活動を展開する。 一人ひとりの市民によって適切な分別がなされるよう、わかりやすい啓発を行う。
		支援的に	市民活動を推進する市民団体が活動しやすい環境整備を行う。 粗大ごみについては個別収集を行う。 環境総務課と協力して、小学生や市民を対象とした社会見学、出前講座等を実施し、啓発活動を行う。
	適正なごみ処理の取組	主体的に	分別排出のルールを守っていただくよう啓発する。 関係機関との協力体制の強化を図る。また、組合が円滑に運営できるよう協議、検討する。 新ごみ処理施設の整備事業の推進を行う。
		協働して	関係機関との協力体制を強化し、健全な運営を図る。
		支援的に	効率的・効果的に資源回収、ごみ処理ができるよう、関係機関に対し、協力、支援を行う。

組織の資源と活用	環境部　環境事業課

組織として持っている主な資源

人・ﾈｯﾄﾜｰｸ	技術・知識	情　報	も　の	計　画
北河内4市ﾘｻｲｸﾙ施設組合、四條畷市交野市清掃施設組合、ごみ処理広域化東大阪ﾌﾞﾛｯｸ会議、都市環境開発㈱、北口建設工業㈱、大阪湾広域臨海環境整備ｾﾝﾀｰ、南都興産㈱、ﾊﾛｰﾜｰｸ、NTT西日本	廃棄物処理法、資源有効利用促進法、容器包装ﾘｻｲｸﾙ法、家電ﾘｻｲｸﾙ法、食品ﾘｻｲｸﾙ法、自動車ﾘｻｲｸﾙ法	ごみ収集及び処理・処分に関する情報、国・府からの通達情報	北河内4市ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗｻﾞ、ｴｺ・ｸﾘｰﾝｾﾝﾀｰ寺作業所、廃棄物収集情報管理ｼｽﾃﾑ ﾊﾟｿｺﾝ	一般廃棄物（ごみ）処理基本計画

市民・地域団体・市民団体・事業者・事業者団体等によるまちづくりの取組みに関する情報

広報・回覧・ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ。ごみ出しﾏﾆｭｱﾙ。

市内公共施設等に蛍光管回収ボックスを設置し水銀とガラスに分離してリサイクル。
不要になった自転車、部品を有効利用するため職員が組み立て、再生してリユース自転車として環境事業所フリーマーケット、災害等の支援物資、環境フェスタ等で無償提供を行うとともに、庁内各課にも公用自転車として提供。

資源を踏まえ行動指針から課題と考えること、その解決策

行動指針	課題	解決策
多様性ある	課題・目的を共有する場はあるが、活用しきれてない。	より多くの人と課題・目的を共有する場を設定して有効に活用する。
顔が見える	会議等だけでは、身近な関係性を築くことは難しい。	顔が見える関係性をつくるために、地域のｲﾍﾞﾝﾄ等への参加や出前講座を行う。
協働する	関係部署との一元化を図り、効率よく事業に取り組むことが必要。	機構改革を行うとともに地域・市民との協働のしくみづくりを行う。
挑戦する	今後更なるごみの減量化や焼却炉の軽減を図る。	環境事業課職員が目的意識を持つことで、事業に取り組むきっかけをつくる。
創造する	財政的な要因等により、新しい取組や現行維持がしにくい環境にある。	機械・器具類の入替えやﾘｰｽ等の検討も必要。
持続する	直営体制を維持継続していくには、個々に負担がかかる。	収集体制の改善、業務内容の見直しを行う。

課の資源を有効に活用するために取り組むこと

情報の視点 （収集、提供）	わかりやすいごみの出し方ﾙｰﾙ・ﾏﾅｰ等を市民に情報提供する。 違反ごみに対する啓発・啓蒙・指導を行う。
学びの視点 （育成、機会）	国・府等が主催する研修・講習会等に積極的に参加する。出前講座・施設見学会等において、ごみの現状や啓発を行い市民と接する機会を創出する。
広域的視点 （他との連携）	災害時等におけるごみの受け入れについて近隣市との応援・連携体制を継続確保する。
場づくり	市・自治会・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体等により地域清掃に参加できる体制づくりに取り組み、環境美化に努める。

施策名	環境衛生の維持・向上
部課等名	環境部　環境事業課
“かたのサイズ”をめざす像（主要3つ）	マナーを守り、周囲に迷惑になることをしないように心がけている 道路や公園など生活環境がきれいに保たれている
現状と課題（上記を踏まえ）	ごみの分別排出の徹底やマナーの向上を図って行くこと。 直営での収集体制の確保と今後、退職者が増えていくことから委託等による業務内容の見直しや改善が生じる。また老朽化による機械・器具類の維持管理費や車両、施設・設備等についても今後検討・協議が必要である。 地域清掃・不法投棄ごみの収集・処分については一元化を図り他課と共同で事業を行うことが望ましい。
施策の目的（提供する価値）	市民が、生活の中で排出したごみを適切にかつ効率的に処分し、衛生的な環境を享受している。
施策の目標（3年後の状態）	平成 29 年 5 月に稼動が予定されている新ごみ処理施設完成までの間、設備の延命を図る。
財源見込み	国の負担　（　　0 千円）　　大阪府の負担（　　116　千円）

	事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	アウトプット指標	H25実績	H27目標	H27 予算額 H26 予算額
1	ごみの適正な収集及び処理・処分	ごみの適正な収集及び処理・処分を行う。	法定	直委	A	総ごみ処理量	19,507,437 kg	一層のごみ減量化	227,645 千円 227,417 千円
2	ごみ収集処理施設整備の維持管理	施設や設備類の適切な維持管理。	選択	直	A	—	—	—	1,866 千円 1,887 千円
3	蛍光管の拠点収集	蛍光管の適切な収集を行うため、拠点収集を行う。	選択	直	B	収集処理量	40,685 本	市民が排出しやすいよう拠点場所の増設	0 千円 0 千円

収集作業の様子

組織の目的と役割　環境部　リサイクルセンター

組織の目的（どのような価値を提供するのか）

交野市内で排出される資源ごみの有効活用を進め、地球環境の保全に資する。

価値を提供する上で、解決すべき課題

市民一人一人がもったいないと言う気持ちになること。

組織が担う施策とその役割

施策の柱	施策名	役　割	役割の内容
ごみの減量化とリサイクルの推進	循環型社会システムの充実	主体的に	資源ごみを効率的・効果的に分別処理をする。 平成29年度に稼動予定の新焼却場が運転されるまでの間、現有施設の適正な維持管理・効率的な運転に努める。
		協働して	選別機等の運転を見直し、節約に努める。
		支援的に	施設見学でごみの減量やリサイクルの意識を高めてもらう。 施設の定期点検等を充実させる。

組織の資源と活用　環境部　リサイクルセンター

組織として持っている主な資源

人・ネットワーク	技術・知識	情　報	も　の	計　画
4R市民会議	廃棄物処理法 容器包装リサイクル法	リサイクルに関する情報	缶・ビン選別施設 家具の展示スペース	一般廃棄物（ごみ）処理基本計画

市民・地域団体・市民団体・事業者・事業者団体等によるまちづくりの取組みに関する情報

資源を踏まえ行動指針から課題と考えること、その解決策

行動指針	課題	解決策
多様性ある		
顔が見える	施設見学等が少ない。	職場体験なども積極的に受け入れる。
協働する		
挑戦する	残渣を出来る限り少なくする。 節電に努める。	市民1人１人の意識を高める。 機械等の適正な運転及び施設運営の改善。
創造する		
持続する	新焼却炉が稼働するまでの間、現有施設を適正に維持管理する。	現在の体制維持。

課の資源を有効に活用するために取り組むこと

情報の視点（収集、提供）	国・府等の研修会・講習会への積極参加や各市との情報交換
学びの視点（育成、機会）	施設見学者等へリサイクル意識を向上させる。
広域的視点（他との連携）	
場づくり	職場の美化環境に努める。

施策名	循環型社会システムの充実
部課等名	環境部　リサイクルセンター
“かたのサイズ”をめざす像（主要3つ）	地球温暖化に気を配り環境にやさしい配慮をしている もったいないという思いで限りある資源を大切にしている
現状と課題（上記を踏まえ）	市民から排出される資源ごみの中に異物混入（缶の中にたばこ等）や、過剰な包装（1つ1つ袋に詰めて排出）がされると選別作業に影響を及ぼす。 積込み時等でビンが割れてしまい、細かい物が残渣として残る。
施策の目的（提供する価値）	市民一人一人が意識を高め、ごみの減量化、ﾘｻｲｸﾙを推進する。 ﾘｻｲｸﾙされた資源が再商品化され、ものが循環して利用される。
施策の目標（3年後の状態）	適正且つ効率のよい施設運営をし、新施設への移行に臨む。
財源見込み	国の負担　（　　0 千円）　大阪府の負担（　　0 千円）

	事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	ｱｳﾄﾌﾟｯﾄ指標	H25実績	H27目標	H27 予算額 H26 予算額
1	資源ごみのﾘｻｲｸﾙの推進	容器包装廃棄物等の資源化を推進するため、ｱﾙﾐ缶等を選別	委	法定	A	残渣処理量 残渣資源量	20,600kg 17,910kg	20,000kg 17,500kg	22,284 千円 24,439 千円
2	資源ごみ選別棟及びﾘｻｲｸﾙｾﾝﾀｰの維持管理	設備や機器類の適切な維持管理	直	法定	A	―	―	―	4,386 千円 5,360 千円

リサイクルセンター

組織の目的と役割　環境部　乙辺浄化センター

組織の目的（どのような価値を提供するのか）

良好なし尿処理体制を構築し、環境衛生の向上を図る。

価値を提供する上で、解決すべき課題

し尿、浄化槽汚泥の排出は将来も続き、処理は市町村の責務である。　一方、当施設は供用開始以来30年超が経過し、老朽化が著しくなっているうえ、現状は処理量の減少、し尿、浄化槽汚泥の変質や負荷変動のため処理が困難になっており、当面の間、処理を外部委託している。今後は、早急に将来に向けての合理的かつ経済的なし尿処理体制の構築を図らなければならない。

組織が担う施策とその役割

施策の柱	施策名	役　割	役割の内容
施設の適正な維持管理並びに処理委託先の厳正な監督	環境衛生の維持・向上	主体的に	効率的な事業・事務を遂行し、処理委託先の状況把握に努め、適正処理の監督を厳正に行う。
		協働して	大阪府、周辺市とともに、広域処理の検討。 新施設建設を検討する上で処理体制を構築していく。
		支援的に	

組織の資源と活用　環境部　乙辺浄化センター

組織として持っている主な資源

人・ネットワーク	技術・知識	情　報	も　の	計　画
し尿委託業者及び浄化槽許可業者	技術管理者、危険物取扱主任者（乙4類）、第2種酸素欠乏作業主任者、特定化学物質取扱作業主任者、特別管理廃棄物管理責任者	し尿収集及び処理・処分に関する情報	し尿、浄化槽汚泥処理施設（当面はし尿・浄化槽汚泥の中継点として使用）	一般廃棄物（生活排水）処理基本計画

市民・地域団体・市民団体・事業者・事業者団体等によるまちづくりの取組みに関する情報

資源を踏まえ行動指針から課題と考えること、その解決策

行動指針	課題	解決策
多様性ある		
顔が見える		
協　働　する	広域処理化	周辺市との意見交換を進める。
挑　戦　する	コストの低減	H24 年度から処理を外部委託し、設備等の更新コストを削減したもので、今後も継続する。
創　造　する		
持　続　する	適正処理の継続	処理委託先の監督を厳正に行う。

課の資源を有効に活用するために取り組むこと

情報の視点（収集、提供）	大阪府清掃施設長協議会や、財団法人日本環境衛生センターの主催する各種研修会に参加し、他市担当者との情報交換を図る。国の施策動向の注視。
学びの視点（育成、機会）	
広域的視点（他との連携）	周辺市との広域処理についての可能性を探るための意見交換を図る。
場づくり	

施策名	環境衛生の維持・向上

部課等名	環境部　乙辺浄化センター
“かたのサイズ”をめざす像（主要3つ）	川や池など水辺環境がきれいで、潤いがある
現状と課題（上記を踏まえ）	現施設の設備更新コスト低減のため、当面の措置として、H24年度から処理業務を外部委託しているが、第一義的な処理責務は当市にあるので、早急に将来のし尿処理体制のあるべき姿を検討・構築していかなければならない。
施策の目的（提供する価値）	市民が、衛生的で快適な生活環境の中で生活している。 人体から排出された汚物を自然界に大きな負担をかけないよう浄化し戻す。
施策の目標（3年後の状態）	処理方式等を含めたし尿処理体制の構築を目指す。
財源見込み	国の負担（　　0 千円）　大阪府の負担（　　0 千円）

	事業名	事業概要	実施形態	位置付け	H25評価	アウトプット指標	H25実績	H27目標	H27 予算額 H26 予算額
1	し尿収集業務の円滑な推進	良好なし尿収集体制	直委	法定	A	し尿収集処理件数	100% （584 件）	100%	26,000 千円 26,200 千円
2	し尿処理手数料収納事務	し尿汲取り手数料の徴収事務	直委	条例	A	収納率	100 %	100%	3,705 千円 3,935 千円
3	し尿処理施設の維持管理及びし尿処理業務の適正な実施	処理工程の適切な運転等及び処理業務外部委託の着実な継続	直委	法定	A	適正な維持管理・法令順守	法規制を満足する維持管理を達成	処理委託先の厳正な監督	139,104 千円 139,265 千円

乙辺浄化センター